

38.9cmになり、「岐阜」の幅の86%です。皆さん、北海道の地図を買って、「え！これでも同じ値段」と損したような気分になったことは無いですか？ 逆に九州は得した気持ちです。

20万図は広い範囲をカバーしますから、図幅名は「旭川」「東京」「福岡」などそこに含まれるよく知られた都市名(または地名)を当てています。中には「京都及大阪」「岡山及丸亀」と2つの都市の顔を立てている名前もあります。沿岸部や離島では「小串」とか「富江」とか聞き慣れない名前もありますが、ほとんどの場合、20万図の名前を聞けば「ああ、あの辺か」と頷けます。ちなみに、岐阜県は「高山」「飯田」「豊橋」「金沢」「岐阜」「名古屋」の6枚にわたっています。

20万図を縦横それぞれ4等分し合計16枚に分けたのが5万分の1の地図です。1枚の範囲は

$$\text{南北 } 40' \div 4 = 10' \text{ (18.5km, 37cm)} \quad \text{東西 } 60' \div 4 = 15' \text{ (22.7km, 45cm)}$$

ただし、東西は5万図「岐阜」図幅の値です。

20万図を16分割した5万図を右の図のように1号から16号まで番号をつけます。この番号は固定で、海のため空白の部分があっても、繰り上げることはしません。ですから1号といえば北東角、13号なら北西角のように番号を見れば20万図の中で大体の位置が推測されます。ちなみに「大垣」は「岐阜8号」ですから中央右下部ということが分かります。

1 3	9	5	1
1 4	1 0	6	2
1 5	1 1	7	3
1 6	1 2	8	4

5万図の名前もその地図に含まれる都市名等を当てますが、範囲が狭いので山間部などは「能郷白山」「谷汲」等含まれる山名や地名も当てています。また、「名古屋北部」「名古屋南部」といった命名もあります。

5万図をさらに縦横2等分、合計4枚に分けたのが25000分の1の地図です。1枚の範囲は

$$\text{南北 } 10' \div 2 = 5' \text{ (9.26km, 37cm)} \quad \text{東西 } 15' \div 2 = 7.5' \text{ (11.32km, 45cm)}$$

ただし、東西は2.5万図「岐阜」図幅の値です。なお、最近の版は4辺をそれぞれ2.4cm(600m)拡張し、隣接の地図とラップして表示しています。

2.5万図にも右の図のように番号をつけます。この番号も固定です。このようにして最終的に2.5万図「岐阜」図幅の番号は「岐阜4号-4」となります。地図名は5万図よりさらにマイナーになりなりますから、地図の番号から山の所在地などを探すがより効果的になります。

3	1
4	2

支部報「岐阜山岳」では山行報告の末尾の地図欄には2.5万図の名前と番号を記載しています。例えば、昨年6月県外山行で登った京ヶ倉と大城。なじみのない山でどこにあるのか分かりませんが、「高山2号-1」となっていますので、「ああ、高山図幅の右端、上側付近の山だな」と見当をつけることができます。全国の地図名は、ネットならば「国土地理院刊行地図一覧図」と検索すれば見ることが出来ます。また、地理院の地図を扱っている書店では無料で一覧図を配布しています。

さて、これからが問題です。ネット上の地図と紙の地図の番号をどうリンクさせるかです。ネット上の地図をいろいろ調べましたが、紙の地図との関連は分かりませんでした。中心点の緯度経度は分かるので、それから対応する紙の地図の名前や番号を特定できますが、こんな手間のかかることは全く無意味です。

最終的に私の出した結論は「20万図を揃えて下さい」ということです。前述したように岐阜県は「高山」「飯田」「豊橋」「金沢」「岐阜」「名古屋」の6枚です。それに「長野」「甲府」「静岡」「富山」を